

第13期 平成25年度活動報告

1. 市民協働の支援事業

(1) 市民協働の中間支援組織整備に向けた取り組み ※継続

ー掛川市では、共同のまちづくりの拠点として「市民協働センター」の開設に向けた準備を行っている。中間支援機関の検討・準備に対して情報提供を行った。(管理運営体制、事業内容の研究など)

(2) 袋井市メロープラザ市民スタッフ育成業務(受託事業) ※継続

ー袋井市メロープラザの自主事業を企画、運営に参画する市民スタッフを養成した。

(3) 三遠南信住民ネットワーク協議会への参加(自主事業) ※継続

ー住民ネットワーク協議会の世話人として「世話人会」への参加 田中・山内 (月1回程度)

ー三遠南信を紹介する「冊子」(全5巻)の販売協力

ー三遠南信のアンテナショップの検討

ー三遠南信サミットin南信州(10/30水曜日)住民セッションの企画検討

ー同サミット終了後は、田中副会長が代表世話人となり、当NPOが事務局を務め活動を支援

ーSENA(三遠南信地域連携ビジョン推進会議)から助成金を受け、三遠南信地域の住民連携事業を実施



2. 環境保全の支援事業

(1) はまなこ環境ネットワーク関連業務(静岡県委託業務) ※継続

1) 浜名湖情報交流事業

- ・ホームページ、ブログ配信
- ・広報誌作成、配布
- ・その他メールマガジンほか

2) 浜名湖環境教育プログラム実施業務(浜名湖エコキッズ体験塾2回+自主1回)

第1回: 弁天島(アマモ場の観察会) 7/27(土) 55名参加

第2回: 三ヶ日猪鼻湖(水質検査、水の浄化活動見学・いきもの観察) 8/24(土)



3) 浜名湖エコワークショップ（2回）

第1回：ラムサールプロジェクトの現場訪問（バス・船）、意見交換 11/9日（土）

第2回：環境保全講演会、循環型環境保全活動の事例紹介

グループワーク（4つのテーマで意見交換会） 1月18日（土）

※NPOむらちやネットと連携して事業に取り組んだ



4) 浜名湖環境保全活動連携業務

平成26年3月15日（土）実施

ー環境保全活動団体等の活動発表

ーポスターセッション（団体の活動紹介）

ー活動マッチング

※NPO奥浜名湖観光まちづくりネットと連携



(2) 浜名湖ラムサールプロジェクト(浜松市助成事業) ※新規

ー浜名湖のラムサール条約登録に向けた市民・県民の啓発を目的に、平成25年度浜松市「みんなのはままつ創造プロジェクト」へ事業応募し、助成金を受けて実施した。

○ワークショップ（アマモ利用の取組）アマモ回収・農地への施肥、収穫（全3回）

○浜名湖ラムサールシンポジウム（11/10日（日）アクトシティ浜松コンgressセンター）

基調講演 認定NPO自然再生センター専務理事、島根大学教授

事例紹介 中海の海藻肥料事業ほか

環境省によるラムサール条約の現状

パネルディスカッション

浜名湖のラムサールなるか？！

○実施主体 はまなこ環境ネットワーク（Tネットは事務局）



浜名湖ラムサールシンポジウム

3. 地域文化の伝承・景観形成の支援事業

(1)ぐるり・富士山風景街道に関する取組 ※継続

- 1)朝霧地区景観形成ワークショップ会議 3回実施(自主事業) ※継続
- 2)HPの維持
- 3)ぐるり富士山トレイル研究(テーマ別部会)

- ー先導的官民連携支援事業と連携して実施した
- ー山梨県側との調整によりぐるり富士山トレイルルートを発表(富士山の日)

(2)東海道2峠6宿風景街道に関する取組 ※継続

- 1)静岡街道観光協議会の運営(自主事業+協議会より助成金)
- 2)道のエコミュージアム基金事業(自主事業)
- 3)HPの維持
- 4)マップの作成

- ー興津宿+薩埵峠 2000部増刷 由比宿 7000部増刷 ー江尻宿 3000部増刷
- ー丸子宿 1500部増刷

5)道のミュージアム東海道駿河2峠6宿体験・発信プログラム(セブンイレブン助成金)

○草刈・桜植樹の実施(宇津ノ谷ワークショップ)

- ①4月26日(金):宇津ノ谷自治会・宇津ノ谷まちづくり協議会
- ②5月21日(火):丸子まちづくり協議会調整
- ③6月2日(日):宇津ノ谷自治会・宇津ノ谷まちづくり協議会:伐採場所の草刈りの実施
- ④11月10日(日):宇津ノ谷自治会・宇津ノ谷まちづくり協議会・丸子まちづくり協議会
- ⑤1月中旬:宇津ノ谷まちづくり協議会:事前の草刈り
- ⑥1月19日(日):宇津ノ谷自治会・宇津ノ谷まちづくり協議会・丸子まちづくり協議会

ー桜の植樹

<参加募集チラシ>

<知ってね 2峠6宿通信参照>

○土地所有者の方との調整

- ①7月31日(水):藤枝市中谷
- ②11月15日(火):藤枝市中谷
- ③1月16日(木):藤枝市中谷

6)フォトコンテストの実施

東海道2峠6宿のPRとそれぞれの宿場の写真データを得ることを目的にフォトコンテストを実施した。

○募集期間

ー平成24年11月～平成25年5月31日

○入賞



- －最優秀賞 1点(3万)
- －優秀賞 16点(5千円)
- －入選 8点(賞品)

○審査会

- 日時：平成25年6月18日(火)午後1時30分～
- 場所：静岡市女性会館 研修室
- 応募作品数は216点



<審査員 五十音敬称略>

氏名	所属
柴山 健一	日本写真協会会員、全日本写真連盟関東本部委員二科会写真部支部委員
田中 豊稲	静岡市美術館 館長
田中 雄基	静岡市経済局商工部 観光・シティプロモーション課
田中 孝治	静岡二峠六宿街道観光協議会 会長
平野 雅彦	静岡大学人分社会学部客員教授 静岡県広報アドバイザー

○表彰式と写真展

- 日時：10月19日(土)午後1時30分～
- 場所：静岡市東海道広重美術館



7) 写真展

- 日時：10月19日(土)～30日まで
- 場所：東海道由比宿交流館

① 10月9日(水)

－表彰式、写真展現場打合せ

②10月18日(金)

－会場設営

－フォトコンテスト設営



8) 撮りにおいでよIN宇津ノ谷イベントの実施

「宇津ノ谷」をメジャーにしていくため、カメラ好きの人を対象としたイベント。撮った写真をそれぞれのブログやSNS等にて発信してもらうことを目指した。

■実施日：平成25年11月16日(日)午前10時～14時

■場所：宇津ノ谷集落・明治トンネル

－雨天中止とうたっていたなか、当日は始まると少し前から雨が降ってきたため、明治トンネルに場所を移して実施した。

－雨天の場合、明治トンネル内にて実施できることが分かった。今後は「雨天中止」と表記しないこととする。

<実施状況>

①10月16日(水)：調整・地元打合せ

②9月12日(木)：静岡市文化財課調整

藤枝市街道文化課調整

③11月6日(水)本部清掃・地元調整

④11月10日(日)：実施



9) 「しってね2峠6宿通信」の発行

宇津ノ谷峠の草刈りや桜の植樹、「撮りにおいでよ・・・」等のイベントの実施などのPRのために通信を8月、3月の2回発行し、丸子自治会に全戸配布した。

①6月4日：丸子まちづくり協議会

－通信発行についての説明・調整

10) ふじえだ「環境・自然展」2014の参加

環境自然等を大切に守っているグループの発表の場となるふじえだ「環境・自然展」のポスターを出典した。

■日時：平成26年2月16日(日)～2月28日(金)

■場所：藤枝市文化センター

■日時：平成26年3月1日(土)～3月14日(金)

■場所：藤枝市市役所

(3) 清水次郎長生家の管理運營業務（静岡市補助事業）※継続

－清水次郎長生家を保存するため、静岡市より補助を受けて管理運営を行う。

－3名のパート職員による運営（施設管理、説明、物産販売）。

－清水の経済人等と一緒に生家の保存活動を展開し、保存修復のための募金活動を行った。

1) 次郎長生家の保全に関する取組

(1) 専門家による調査

① 第1回調査

■日時：平成25年2月25日月曜日

■専門家 増田千次郎氏



生家の整備について

- 生家の建築年数
 - －安政の地震(1854年)時、破損し修復したという口承が残っている。
 - －それを否定するもの見られなかった。
- 建築的な価値
 - －清水湊を利用していた庶民の暮らしが分る建物として唯一残っている。
 - －建物の価値よりも市民の心象、清水の歴史の一端としての価値が高い。
- 整備の仕方
 - －活用しながら残していくことが基本。建物を存続させるため手を入れる
 - －現在の部材を取り除かずに足していくような工法で整備していく
 - －資金がないなら、ないなりに見えない所は安い部材を使うなど工夫する

②第2回調査

歴史建造物が災害を受けた場合の被害状況の想定を行い、これに対して最も迅速かつ経済的に実施される復旧方法、歴史的価値保全復旧手法等のそれぞれについてケーススタディを行う「歴史的建造物の保全・活用のための調査」として、国土交通省から委託を受けた公益社団法人 静岡県建築士会が生家を調査した。

■日時：平成25年12月、26年1月10日

■専門家

公益社団法人 静岡県建築士会 静岡県ヘリテージセンターセンター長 塩見寛氏他4名

②第3回調査・設計案の提示

「歴史的建造物の保全・活用のための調査」をふまえ、耐震判断ができる在来工法ではない生家の建物の現況、改修方針と手順を明らかにし、今後の市民へのPR、募金の根拠としていくために依頼した。

■日時：平成26年3月～5月

■専門家：伊藤貴広氏 (有)マルワ建工



2) 次郎長生家の修復に関する取組

(1) 修復する場合の内容と見積

- ①屋根部分の見積作成
- ②生家梁の補修

－2階を支えている梁がシロアリによる、ささくれ、木屑が落ちてくるような状態となり、緊急に修復を行った。

(2) 修復費用の開発の検討

- ①募金リストの作成

(3) 地元団体、住民とのネットワークと協力

- ①商店街との連携

－次郎長通り商店街での祭りなどでPRした。
 －商店街で次郎長関連シャツを作成し、それを販売した。

次郎長生家通じ活性化

英和学院大 岡部ゼミ 研究に向け大掃除

静岡英和学院大(静)は地域再生の研究に取組む中で、耐震性能や設備に課題があるため、2階を学生が、同市清水区にある次郎長通り商店街は昔ながらの清水湊を学舎として活用し、地元小学生など、次郎長生家を活用し、2階を対象にしたスタンプラリーを計画しているが、古民家の活性化に乗り出す。岡部ゼミが中心。

16日は活動の拠点となる生家の2階和室を、古民家を活用し、学生らが大掃除した。の親子に親しんでもら

「多岐所を作りたい」と話した。生家を管理・運営するP.O.法人「地域づくりサポートネット」理事長は「清水の発展に、若者が減る中、学生の力を借りて発信力を高める」と期待を込めた。

17日

▽静岡市 午前9時～11時45分、午後1～4時 市役所

▽静岡市 午後7時～半～1時半、静岡てんかん・神経医療センター、午後2時15分～4時、県赤十字血液センター

▽掛川市 午前9時半～11時30分、午後1～4時 市役所

②各種活動団体との連携

一静岡英和学院人間社会学部コミュニティ福祉学科
岡部真知子ゼミとの協働事業

- 平成25年12月16日：大掃除の実施
- 平成26年1月26日スタンプラリーの実施



③生家屋根修繕費補助

一生家において募金活動を行っている。

3) 広報チラシの作成

一次郎長生家の現状を広く市民に理解してもらうツールとして、A4版カラーチラシを13,000部作成して、各関係団体、関係者等に配布するとともに、地区内で行われる祭りなどに積極的に参加し、PR活動をおこなった。



4) 活動宣言によるPR

一清水地区での最大の夏祭りである「清水みなと祭り」において実行委員会が主催する「伝統の競演・美縁」で「次郎長生家存続のための活動宣言」のセレモニーイベントを8月4日に行った。この時には、活動宣言文とチラシを参加者に配布した。

5) ホームページの開設

一清水みなと界限ナビのホームページに「次郎長生家存続のための募金」ページを開催し、広くPRしている。
一商工会議所が毎年、静岡市に提出する行政施策要望書に「次郎長生家の存続と次郎長を活かしたまちづくり」についての要望を提出するよう働きかけ、実現した。

6) ツアーの実施

一生家を市外の人にも知って頂く事業として駿河湾フェリーさんの旅行企画のなかに生家を取り込んでもらった。

7) 静岡市商工会議所

一商工会議所から静岡市への政策提言書に「次郎長生家の存続」について要望を提出した。



8) 静岡市への要望

一11月14日市長あてに要望書を提出した。

(4)駿河歩人研究会の街道観光事業への協力（県緊急雇用対策事業）※継続

- －2 峠 6 宿の活動を町歩きの仕事みをバージョンアップし、ガイドとともに歩く仕組みづくりに取り組んだ。仕組みを進める組織として「駿河歩人研究会」を立ち上げた。
- －3 名雇い、15 コースを設定し、クーポン付マップを作成している。
- －次郎長生家を町歩き事務局として位置づけている。

(5)下田街道活用資料作成業務（国の役務提供）※新規

- －伊豆縦貫道の整備に伴い、風景街道の取組の一環として、脇道である旧下田街道の小鍋峠（河津町と下田市にまたがる峠）の整備等を地域の団体や住民、行政と連携して実施した。

- ・ 古道の整備（草刈、道の簡易整備）
- ・ 案内サインの整備、現地案内板（マップ）の設置
- ・ 住民と行政によるワークショップ（意見交換・提案）
- ・ 小鍋峠散策マップの作成



(6)国道138号須走地区景観形成ワークショップ会議（国の役務提供）※新規

- －ぐるり・富士山風景街道のエリアである国道 138 号小山町須走地区の景観を守り育てるため、地域住民等の意見を集約するワークショップを2回開催し、富士山の景観形成に寄与する取組などについて提案した。

- －契約工期 /平成 26 年 1 月 31 日～平成 26 年 3 月 28 日
- －第1回ワークショップは大雪の為延期となり、契約変更後現地踏査・現況把握を実施した。
 - ・ 3月9日(日)午前10時～11時30分
- －ワークショップ会議の開催
 - ・ 3月17日(月)午後19時～21時10分



4. 観光まちづくり・地域振興支援事業

(1) 中部ブロック「道の駅」連絡会事務局（委託事業） ※継続

- －総会（1回）、役員会（2回）、活性化会議（勉強会）2回、事務局会議に参加した。
- －活性化会議（静岡県分科会）の段取り、準備、運営を行った。（12/24 小山町内で開催）
- －中部地方整備局管内の「道の駅」にwi-fi機能付自動販売機の設置し、自販機から事務局費の補てんする仕組みづくりに取り組んだ。



(2) 国土交通省先導的官民連携支援事業（静岡県委託事業） ※継続

- －ぐるり富士山トレイルの研究（ぐるり・富士山風景街道アクションネットワークと連携）
- －静岡県交通基盤部政策監が国土交通省総合政策局の事業（通称：PPP）に応募して採択。県の簡易プロポーザル業務にTネットとして応募・採択により調査業務に取り組んだ。
- 名称 「富士山を繋ぐ道」 楽しく使い・賢く守る” 包括的マネージメント検討調査業務
- 内容 民間事業者等へのヒアリング、需要予測と採算性検討、マネージメント手法の調査運営組織の検討・調査、モデル地区でのケーススタディ、VFM（バリューフォーマネー）の算定
- 対象エリア ぐるり・富士山風景街道エリア（山梨県を含む）※ケーススタディは富士宮市朝霧
- 期間 平成25年8月～26年2月末



(3) 富士宮商工会議所 地域力活用新事業全国展開支援事業への協力(日本商工会議所補助事業)

- －富士宮商工会議所が日本商工会議所の「地域力活用新事業全国展開支援事業」に対し、朝霧高原をモデルに”富士山トレイルビジネス”の研究を申請して、採択された。この申請及び調査事業実施に対し、協力・参加した（専門委員、委託）。NPO法人まちづくりトップランナーふじのみや本舗とも連携して行った。

- ー静岡県交通基盤部の先導的官民連携支援事業とも連携して実施した。
- ー地域の事業者が連携して、富士宮市朝霧高原でトレイルのマネジメント組織を構築していくことになった。

(4) 富士山周辺「道の駅」情報提供資料作成業務(国の役務提供業務) ※新規

- ーぐるり・富士山風景街道のエリアにおいて、風景街道及び富士山トレイルの情報提供のコンテンツを作成し、道の駅利用者等に情報提供した。本事業は国土交通省の公募事業にエントリーして採択された。
- ー「道の駅」を起点に富士山の構成資産を巡るドライブマップやPRパネルを作成し、利用者や道の駅へのアンケートを行った。
- ーまた、道の駅に対し、よく聞かれる質問を聞き、パネルを作成した。
- ー対象の道の駅は、静岡県内の富士山周辺の4駅（富士、朝霧高原、ふじおやま、すばしり）。



(5) 浜名湖魅力発信業務(静岡県委託業務) ※新規

- ー浜名湖の自然、歴史、文化、観光、まちづくりなど地域資源を活かして、浜名湖の魅力を発信する活動している団体を調査してガイドブックを作成し、配布した。



(6) 塩の道サイクルロード調査への協力(静岡県緊急雇用)

- ー(株)東海まちづくり研究所が静岡県の緊急雇用対策事業により塩の道・秋葉街道を自転車でめぐるルート調査を行い、当NPOはその調査への助言とPRに協力した。
- ーまた、「塩の道・秋葉街道」を風景街道に登録するための、情報提供やワークショップに参加した。



5. 安心・安全なまちづくり支援事業

(1) ジャパンプラットホーム「共に生きる」ファンドの震災復興支援事業(公募・NPO 助成金)

―「共に生きる」ファンドの助成に応募し、静岡県内への避難者の生きがいがづくり及び地域に馴染むための支援活動を行った。支援活動に対し、支援スタッフを雇用して実施した。

●第13次助成金 7月16日～3月15日 8ヶ月間

○静岡・浜松への避難者からの恩返し・生きがいがづくり・交流支援

- ―被災者の体験談から学ぶ「冊子」の作成(全32ページ)
- ―被災者の体験談を聞かせる「防災講座」(中部・西部 各2回)
- ―避難者と県民との交流イベント企画、実施(3回開催)
- ―地域の歴史・文化を学ぶコミュニティカレッジ(2回)

○浜松への避難者のようすを紹介する情報誌「虹のおたより」を配付(月1回)

○復興カフェ(静岡市内)の運営(支援の相談、情報受発信、被災地の経済復興支援など)

○物産展、展示会による被災地の現状紹介と復興商品等の物産販売



(2) ふるさとふくしま帰還支援事業(公募・福島県助成金)

H25.6月～H26.3.15

○福島県から静岡県(県西部地域)に避難する人たちケア・交流を開催(月1回交流事業)

○虹のおたよりの企画・取材・編集・発行(隔月)

○福島県に避難する人のふるさと訪問会(9/20～9/22・バスツアー福島県南相馬市ほか)



(3) 浜松市白羽町自治会防災アンケート調査(白羽町自治会からの委託)

―浜松市の沿岸部に位置する白羽町自治会からの依頼で住民の防災意識を把握するためのアンケート調査の企画・集計分析の支援業務を行った。

―白羽町自治会の防災訓練でアンケート結果の報告やJPF助成事業で作成した避難者によるハンドブックを使って防災講座を行った。

(4) 復興支援団体との連携・活動支援(自主事業・継続)

―東北震災を支援する市民団体「SAVE IWATE しずおか」への支援と同団体と連携しながら復興支援活動を継続した。

―SAVE IWATE静岡ブログの作成協力。

※SAVE IWATE しずおかも「ふるさとふくしま帰還支援事業」を受託

―東海4県で広域避難者の支援をしている団体のミーティングに参加(3月)

(5) 浜松市NPO災害協定ネットワーク会議への参加(自主事業・継続)

ー南海トラフ巨大地震に備えて、浜松市とNPOが災害協定を交わし、NPOが復旧・復興の活動の一部を市に代わって担うためのネットワーク構築の研究に参加した。

6. その他目的を達成に必要な事業

(1) 静岡地域学会の活動協力 (自主事業・継続)

ー新しく生まれ変わった新・静岡地域学会の会議及び研究発表会に参加した。(8月10日)

(2) 日本風景街道大学・静岡校の開催支援 (自主事業・新規)

ーNPO 法人日本風景街道コミュニティが中心となって静岡市内で開催する「日本風景街道大学・静岡校」の開催に際し、静岡県内の風景街道の取組事例を紹介するとともに、実行委員会に参画し運営に協力した。

○日時 平成26年2月14日(金)・15日(土)

※10月予定であったが台風で延期

○会場 静岡県庁(2/14)、常葉大学(2/15)

エクスカージョン(2/15 午後)は宇津ノ谷峠を訪問



(3) いわて復興応援ボランティアツアー (自主事業・復興商品販売益活用・継続)

○実施 8月2日(金)夜発～8月5日(月)早朝着

○行き先 岩手県大船渡市、陸前高田市

○内容 カキ養殖の手伝いボランティア

被災地住民との交流、被災地の状況視察・講和

被災地観光(復旧した三陸鉄道の貸切乗車、高田1本松視察、平泉世界遺産観光)

参加費の他、東海まちづくり研究所より協賛金と復興商品の販売益を活用して実施した。

